

第3回

1 日時：令和6年3月18日（月）14：00～16：00

場所：苫小牧市民活動センター 多目的ホール

2 参加者：85名

居宅介護支援事業所職員、地域包括支援センター職員、病院職員

障がい相談支援事業所職員、社会福祉協議会職員、後見支援センター職員

市職員（介護福祉課、障がい福祉課、総合福祉課、発達支援課）

3 内容：①「ACP～もしもの時の意思決定支援～」（講義）

平成醫塾 苫小牧東病院 緩和ケア認定看護師 澤田 真由美氏

ACPの定義や、厚生労働省の「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に沿ってACPがなぜ必要とされているのか、どのように進めていくとよいのかということについて共有した。

②「もしもシートについて活動状況等の意見交換」（グループワーク）

もしもシートの活用状況については、自分で書くことで整理するきっかけとなった、家族も本人のことを理解することができた等、もしもシートの必要性を感じている支援者が多くいた。しかし聞きづらい項目がある、聞き取りに時間がかかる等の意見もあった。今後も活用方法について理解を深めていく予定である。

研修全体を通して、介護の仕事には課題は多いが、身寄りのない方とどう向き合うか、ACPやもしもシートをどう活用するか、どうしたらケアマネージャーの負担を軽減できるのかを考える良い機会になったと前向きな意見が多くあった。

苫小牧民報 電子版 2024年3月22日（金曜）

苫小牧民報

身寄りのない高齢者 どう支援？

「もしもシート」活用方法も ケアマネが研修会

身寄りのない高齢者や障害者への支援方法を考える研修会が18日、苫小牧市民活動センターで開かれた。ケアマネジャーや地域包括支援センターの職員ら81人が、人生の最終段階を見据えたサポートの在り方を学んだ。

市、市社会福祉協議会、とまこまい成年後見支援センターが主催。身寄りのない高齢者が急に入院することになったり、亡くなった場合に、本人や周りの人が困る事態を減らそうと企画された。3機関の職員によるプロジェクトチームが

身寄りのない人の意思決定について話し合う参加者

昨年、情報共有のツールとして「もしもシート」を考案しており、その活用方法を考える場として研修会を開いている。

この日は苫小牧東病院の緩和ケア認定看護師澤田真由美氏が、人生の最終段階で受ける医療やケアなどについて、本人と身近な人、医療従事者が事前に話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」について解説。ACPは最期まで人としての尊厳を保ち、人生を全うする上で重要なプロセスであると強調した。

一方、団体の調査によると、医療従事者やケアマネジャーはACPの重要性を認識しながらも、ノウハウ不足などからほとんど行えていないことが浮き彫りとなった。研修で「家族が近くにいらない身寄りのない人は、特に本人の意思確認を事前に行うことが必要。日ごろの会話の中でも確認することではじめて、ぜひ意識してほしい」と呼び掛けた。

研修会ではこのほか、参加者が14グループに分かれ、「もしもシート」の活用状況や使い勝手などについて自由に意見交換する時間も設けられた。